

今回は、DX推進に不可欠なRPAについてお伝えします。

DX化

2024年、さらにその先まで見据えると、企業のDX化(デジタル変革)の役割はより一層重要になります。DX化は企業が効率的に運営し、競争力を維持するために役立ちます。そのために利用されるテクノロジーは多岐にわたりますが、以下はその一部です。

クラウドサービス	クラウドサービスを利用することで、データの保存・共有・処理を効率的に行えます。クラウドは柔軟性が高く、リモートワーク環境にも対応しやすいです。
人工知能 (AI) と機械学習	AIや機械学習を活用することで、業務プロセスの自動化、データ分析、予測分析などが可能となります。これにより生産性が向上し、業務の効率が向上します。
RPA (ロボティックプロセスオートメーション)	RPAはルーチンで反復的な業務を自動化するのに役立ちます。これにより、人間が行うべきではない作業をロボットに委ねることができます。
サイバーセキュリティツール	サイバーセキュリティツールは企業のデータと情報を保護し、セキュリティリスクに対処するのに不可欠です。

この中で、RPAは非常に重要なテクノロジーの一つと考えています。RPAは、ソフトウェアロボットを使用してルーチンで繰り返しの作業を自動化する技術です。以下は、RPAの主な利点と企業にもたらす価値です。

業務プロセスの自動化	:RPAは、定型業務プロセスを自動化するため、社員はより高度な作業に専念できます
エラーの低減	:人的ミスを削減し、データ入力や処理の正確性を向上させます
効率の向上	:RPAにより、業務プロセスの実行速度が向上し、ビジネスプロセス全体の効率が向上します
コスト削減	:定型業務を自動化することで、企業は作業時間やコストを削減できます
柔軟性と拡張性	:RPAは既存のシステムと容易に統合でき、様々な業務プロセスに適用できる柔軟性を持っています

RPAは特にルーチンで反復的な業務、データエントリー、フォーム処理などに適しており、これらの業務の自動化によって企業は生産性を向上させ、リソースを最適化できます。RPAは他のテクノロジーと組み合わせることで、より包括的なDXを実現する手段となります。

弊社の取組み状況

弊社でもRPAの導入を進めており、その事例の一部をご紹介します。

- ◆在庫管理システムからデータを取得して集計する作業 (生産管理部門)
単純な作業ではありますが、データ点数が非常に多いため、人が手作業で行う場合には何日もかかる作業でした。しかし、自動化により、この作業にかかる工数をゼロにすることができました。さらに、作業を定時後や夜間に実行することで、時間を有効に活用することができました。
- ◆勤怠の情報をエクセルファイルに転記する作業 (総務部門)
毎日定期的を実施している作業を自動化し、入力ミスなどもなくなりました。また、担当者が不在の場合でも別の人が実行することにより、属人化を解消することができました。
- ◆電子帳簿保存法の施行に伴う受発注書類の登録作業 (生産管理部門)
自動化により、作業負担が軽減され、手順作成やレクチャーなどの付帯作業も削減することができました。

一方で、RPA導入時に以下の問題点も浮かび上がりましたが、その都度対応している状況です。

- ◆各個人のPC上でRPAを動作させた場合、RPAがPCの操作権限を握ることになり、その間は作業者がPCを操作できなくなってしまう。そのため、十分な工数削減や効率向上の効果が得られません。
- ◆モニター解像度の違いやOfficeソフトのバージョン、ソフトの表示設定、デスクトップの配色やデザインによって、表示画像に違いが生じRPAが誤認識する場合があります。そのため、作業用PC専用のシナリオチューニングが必要になり、シナリオの共有ができないためメンテナンスや版数管理の手間が増えます。

上記の解決策として、RPA専用のPCを立ち上げて、個人のPCではなく専用PC上でRPAが動く環境を構築しています。

RPAはDXを促進する上で不可欠な鍵となるデジタル技術です。さまざまな業務フローを自動化できるツールであり、効果的な活用により業務効率の向上に大いに寄与します。従いまして、今後も積極的に自動化に取り組み、生産性の向上を図る予定です。